PNLSC News
Philippines Nikkeijin Legal Support Center
認定特定非営利活動法人　フィリピン日系人リーガルサポートセンター
2022年7月11日
Vol.75

※当センターは、フィリピン残留日本人の身元捜し、国籍確認、在日日系人支援等を目的として、2003年11月、弁護士、市民、企業によって設立されました。

日系社会の再結集

パラワンで日系人組織が新たに誕生

2012年にPNLSCが初めてパラワン島へ調査に赴いた時には、わずか２名であった残留日本人２世が、10年の間に53人にまで増えています。２世たちへの聞き取りを進めていく中で、戦後の混乱の中、島民から憎悪の目を向けられる恐怖、命の危険に怯えながら生き延びてきたその苦難の証言に言葉を失いました。

パラワン島での日本軍による捕虜大虐殺

太平洋戦争のさなか、日本軍は1942年のバターン死の行進で捕虜にした米兵をパラワンに連行し、飛行場設営などの労働に従事させていました。日本軍の戦況がいよいよ危うくなってきた1944年12月14日、日本軍は、米軍捕虜150人を地下壕に閉じ込め、生きたままガソリンをかけ、手りゅう弾、たいまつを投げ込み大量虐殺を図ります。捕虜のたちの中には這いだして逃亡を試みるものもいましたが、ほとんどが射殺されました。地下壕の抜け穴から這いだすことに成功したわずか12名の米兵が、抗日ゲリラの手をかりて生き延びることができたのです。彼らによって、この日本軍による蛮行が明るみになり、島民たちの怒りは、日本人移民に向けられていきました。

残留２世たちは口々に当時の恐怖を語りました。

「父はフィリピン人の警察に連行され、自分で掘らされた穴に落とされ、手りゅう弾を投げ込まれて殺害された」

「漁師だった父は、抗日ゲリラによって拷問の末に殺害された」

「民間人だった父はスパイ容疑をかけられ、銃殺された」

戦時下に父を失ったパラワン島の残留２世の証言は、いずれも痛ましいものばかりでした。

戦後の長い沈黙を破った残留３世たち

2022年5月28日、日系３世15人が設立準備のためにプエルトプリンセサに集合しました。そのうち３人が、旧知の仲でありながらお互いが日系人であることを知らず、会場でその事実に気づくという驚きのできごとがありました。戦後長い時間、日本人と名乗ることが、どれだけ危険であったのかを改めて思い知らされたことでした。

長らく隠してきた日本人としてのルーツを確認したい、フィリピンの各地域の日系人社会とつながりたい、日本語を学びたいと願う日系３世たちが、選挙によって役員を選出、それまで日系人会が存在していなかったパラワン島に戦後77年目にして初めて日系人組織が誕生しました。

８月27日に予定している第一回総会には、パラワンの日系人約100名が一堂に集うことになるでしょう。メンバーの経済的な困窮を解決するため、マニラのNGOと連携した太陽光発電による起業プログラムも計画しています。長く引きずってきた戦後の傷跡を乗り越える新しい時代が始まろうとしています。（猪俣典弘）

パラワンでの新たな聞き取り調査と、第 15 次調査に続く今後の道筋

地理的･経済的･歴史的な背景の厳しさを実感

昨年 10 月から今年 3 月、コロナ禍の制約の中でフィリピンで外務省・第 15 次調査が実施され、日本国籍を希望する無国籍の 2 世 81 人の所在が明らかになりました。これを受け、PNLSC はフィリピンの日系人会と協力して、日比両国で、面接調査（対面、オンライン）書類収集、申立に向けた書類準備などを進めています。

今回のフィリピン出張では、ダバオとパラワンでフィールド調査を実施しました。

5 月 22、23 日、ダバオで橋本ミラグロスさん、小原パトリシアさん、内村マリアさんを訪問しました。3 人とも、父の戸籍は見つかっている人たちです。父親と同じ日本国籍をとりたいというかすかな希望、望みを、長い間心の奥底に持ちながらも、行動に移せない事情がありました。それは経済的なこと、日系人会との関係、家族の同意の問題など複雑に絡み合っていましたが、直接会って話すうちに、澱のようにたまった複雑な思いが氷解し､諦めと不安が期待と信頼へと変わっていきました。

PNLSC は発足時、父親の身元未判明の 2 世救済が優先事項となっていたため、身元判明 2 世の国籍回復支援は後手に回ってしまいました。身元判明家族の 3 世は定住ビザを取得して日本に行き、2 世の国籍問題が解決しないまま､家族の日系人会離れが進んでしまったのです。外務省委託調査のおかげで、ここ数年、こうした 2 世の掘り起こしが進み、あらためて 2 世の国籍回復に対する

パラワン
日系人会
初代会長
●
マルガレーテ　”ジジ”
サバンド　ルマワグ

フィリピン
日系人会連合会
会長
●
イネス　パパヤ　マリャリ

新たに結成されたパラワン日系人会の会長に選ばれたことは恐れ多くも喜ばしく思います。

とてもやりがいのある仕事です。より多くのパラワンの島々にいる日系人にコンタクトし、会員を増やしていきたいです。この使命を達成することは容易ではないですが、PNLSC と日本政府の全面的なご支援のもと、努力は必ず成功するでしょう。

私は、変化を起こそう、と会員たちに呼びかけ、働きかけています。それには時間と活動の積み重ねが必要です。会を成功させるためのかけ声は「Do your best」「Neger give up」、日本語でいえば「ガンバッテクダサイ」でしょうか。私たちはすぐに何もかもを成し遂げることはできないけれど、すぐに何かを始めることはできるはずです。

連合会会長として、2022 年 5 月 29 日のプエルトプリンセサにおけるパラワン日系人会設立をサポートできたことは大きな喜びです。第二次大戦が終わって 77 年が経ち、日本は多くの戦後処理をなし終わり傷は癒されました。ところがパラワンの日系人の多くは、まだその傷の中に生きていたことを知り、私はたいへん驚きました。彼らの多くが、日本人のルーツを持っていることにまだ怯えと恐れを抱いているようでした。5 月 29 日の会議の日、クラスメートや同僚、近所の人という長い付き合いのあった相手が日系人同士であったことを初めて知るという、パラワンの日系人にとって啓示的で刺激的な幸せなできごとがありました。

私はパラワン日系人が地域社会に貢献していかれるよう応援したいと思います。今年 8 月の第一回総会には日本からの来客をお迎えするというミッションがあります。若いメンバーがコミュニティに新たな変化をもたらそうとしている今、私は最善を尽くしてサポートします。13 番目の支部となったパラワン日系人会設立の道を開いてくれた PNLSC に感謝します！

（写真上）ダバオ市の橋本ミラグロスさん／（写真下）ひ孫と並ぶ内村マリアさん

希望を確認することができています。疎遠になり年老いた２世とその家族に会い、あきらめかけていた国籍回復について説明し、励ますことの大切さを実感しました。日本から来たというと、私の訪問も喜んでくれました。小原さんは幼少期に父から教わった日本の歌を何曲も聞かせてくれたのです。歌詞、音程も歌詞も明瞭な彼女の記憶力には、感動を覚えるほどでした。

パラワンでは、州都プエルトプリンセサでの集まりの後、スタッフの案内で島を北上し、10 人の残留２世を訪ねました（NHK も同行取材）。プエルトプリンセサから陸路で北へ７時間、さらにボートで４時間のリナパカン島ではモリネ姉妹を訪問。僻地であるためマニラから電話も通じにくく、一時期連絡が取れなくなっていたのですが、今回は３人姉妹のうち２人に会うことができ、日本国籍の希望を確認することができました。さらにそこから４時間ほど北上したコロン島では、ユハラ（ウエハラ）姉妹とアカヒチサムエルさんを訪問。サムエルさんには、父の名前が「カメタロウ」であることをあらためて確認できました。また難航していたサムエルさんの出生証明書の遅延登録の方法についても相談しました。

彼らは、父親の身元は未判明で、戦中や戦後の混乱で出自や父が日本人であることを示す書類がない人たちです。東シナ海に面するパラワンは、ひとたび天候が悪化すると一週間は移動が不可能となります。身元捜し、国籍回復が遅々として進まなかったのはこうした地理的、経済的な背景があったためであることを、身をもって理解しました。

幸い、国籍回復プロセスのスピードアップ、そして対象者の拡充（連絡がつかない人、またコロナ禍で訪問できなかった人たちへのフォローアップ）に、今年も予算がつくことになりました（外務省第 16 次調査）。証拠が少ない人たちにも日本国籍を認めてもらうために、満を持して取り組みます。中には父親が旧日本軍の軍人であるなど、難しいケースもありますが、日本人の子であることが確かなら、たとえ非嫡出子でも何らかの救済が必要と考えます。議員立法による救済も一案です。また国籍や日本に働きに行くという選択肢だけでなく、すべての日系人が地域の日系人会に集い、日系人であることに誇りを持ち、日比の架け橋として活躍できるような仕組みが作れないか、と考えています。皆さまのお知恵とお力もお貸し下さい。（猪俣典弘）

リナパカン島のモリネさんファミリーのご自宅で

在外公館長表彰

4 月 22 日、越川和彦駐フィリピン大使より、PNLSC の猪俣典弘代表理事と PNLSC の現地法人 PNLSCInc. の法律顧問ジョスエ シム ズニエガ弁護士に在外公館長表彰が贈られました。PNLSC の活動を通じフィリピン日系人の地位向上および日比の相互理解促進に尽力したことが評価されました。大使公邸にて行われた授賞式には（PNLSC マニラスタッフも出席）、日本から PNLSC 団体正会員の清水木材㈱の清水格さん、㈱北陽の小田切健治さんも駆けつけて下さいました。「私のこれまでの日系人との歩みについて、在マニラ日本大使館の多大なるご支援に恵まれました。心より感謝申し上げます」（ズニエガ弁護士）「今回の受賞は、共に汗を流し働く PNLSC 東京及びマニラ事務所スタッフ、弁護団、各日系人会、そして団体を支えて下さる多くの方々のご協力の賜物だと思います。これからも全力で残留二世問題の解決に向けて取り組んで頂く所存です。皆様のご指導、ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます」（猪俣）

最近記憶がおぼつかなくなってきた母ですが、祖父のこととなると話は別

看護師として生きてきた母は家族の誇り

◉馬渡エルリンダさん(79歳)ブキドノン州在住

多くの皆さんのご尽力と熱意のおかげで日本国籍をとることできました。私のケースを担当してくださった小菊喜一弁護士、PNLC とダバオの日系人会の皆さまに心からの感謝を申し上げます。

◉尾嵜パキートさん(81歳)ダバオデルノルテ州在住

ようやく日本人と認められ、自分の戸籍を持つことができました。日本に行きたくて以前フィリピン旅券を申請したところ、「あなたは日本人だからフィリピン旅券はとれない」とフィリピン外務省の旅券課から言われました。確かにそうです―そしてそれがやっと現実となったのです。ようやく日本に行くことができます。私の夢を叶えるためにご尽力くださった皆さまに感謝いたします。

◉三輪ホセさん(79歳) バターン州在住

昨年 11 月、千原歌穂子弁護士のご担当で就籍許可の申立てをしたところ、去る 6 月 1 日に許可されたとの知らせを受け取りました。今、私は本物の日本人になれたのです。粘り強く書類の準備をご支援下さった PNLSC の皆様に感謝します。さらに多くの 2 世が皆様の手で救済されますように。

◉田中ロシータさん(86歳) ダバオ市在住

86 歳の母ロシータ ナザルの記憶は 5 年前から時々おぼつかなくなってきましたが、家族のことは例外です。「父はヒデヒコタナカ。私は日本人にみえるかしら？」垂れ目で色白の母に、私たちは「みえるわよ。日本人よ！」と応えます。

母は、キアポのイデアルバザールのマネージャーだった祖父と公務員の祖母のもとに 1936 年に生まれました。家族はヌエバエシハ州カバナトゥアンに移り、祖父はそこで雑貨店「田中バザール」を開業。母は祖父がうどんを作ってたべていたこと、祖父が歌っていた日本の歌 (「シナの夜」) を、今も覚えています。 戦争が始まると、祖父は日本軍の通訳になり連絡が途絶えました。戦後、祖母が公務員に復帰し、一人で母を育てました。母は差別を避けるため祖母の旧姓を使うことにし、奨学金を受けてセントルクス看護学校を卒業。卒業生総代を務め、その後フィリピン大学で看護学を学び、精神科の看護師になりました。法律家の父と結婚、4 人の子の母となります。母はマニラに「ナザル - ハーフウェイホーム」という地域に根ざした統合失調症患者のケアハウスを作りました。父もホームの経営に全面協力、ホームは私たち家族の家でもありました。私たちはそこで育ち、3 人は医者に、末の二男はソーシャルワーカーになりました。健康上の理由で 3 年前から、母はダバオの私の家で暮らしています。 4 月の母の 86 歳の誕生日には子ども 4 人が集まりました。 6 月 1 日、母の就籍許可の知らせが届きました。今、母は何も恐れず自信を持って言えるはず。「父は日本人。だから私も日本人。生まれたときからね」と。願わくば、父の国日本を訪ね、美しい満開の桜や富士山の絶景、美味しい日本料理、憧れの着物を楽しむまで、母が元気でいますように！

田中ロシータ長女：チタ I. ナザル マトゥノグ（3 世）

UNHCR調査

2022 年 4 月 7 日、UNHCR フィリピン事務所のメリアム・フェイス・パルマさん他 2 人とフィリピン司法省無国籍者保護課のメルビン・スアレス保護官がダバオ市のフィリピン日系人会（PNJK）を訪れ、残留 2 世 6 人への聞き取り調査を実施しました。無国籍の日系 2 世や無国籍から日本国籍をとった 2 世から、日本人の子であるために受けた経験やこれまでの歩み、現在の生活状況を聞くことが目的でした。一人ひとり状況は違いますが、皆、日本国籍がほしいという共通の願いを表明していました。無国籍者の保護と削減に取り組む UNHCR は、2021 年にまとめた報告書で、フィリピン残留日系 2 世の国籍問題を、2024 年までに日比の二国間協力によって解決するよう提言しています。

沖縄県ダバオ会・山入端嘉弘会長（86 歳）より

本土復帰 50 周年とダバオの塔建立 50 周年

沖縄県ダバオ会会長の山入端（やまには） 嘉弘と申します。沖縄県南城市在住のダバオ移民２世でございます。

2022年５月15日に沖縄県は本土復帰50周年を迎えました。時を同じくして沖縄県平和祈念公園内(聖地「摩文仁の丘」)に建立されているダバオの塔も、建立50周年を迎えることとなりました。例年５月15日の沖縄本土復帰記念日に慰霊祭を催行してきましたが、新型ウイルス感染拡大予防の観点から、本土復帰記念行事と重ならないよう４月26日に日程を変更し、参列者もご来賓と当会の理事役員のみの小規模の催行となりました。

ダバオの塔は、全国ダバオ会を中心として1972年3月28日に建立されました。当初、慰霊塔は現地(ダバオ)に建立計画があったのですが、戦後、日本とフィリピンの関係は極めて悪く、仮に建立が実現しても毎年の慰霊祭を催行できない可能性や、塔の維持管理の難しさなどを理由として、計画が滞り数年が経過したそうです。そのような中、全国ダバオ会が沖縄県を建立地として決定した理由は、沖縄県が日本の最南端に位置しフィリピンに最も近いこと、気候もダバオに似ていること、開拓当時から数十年にわたり、ダバオ在留邦人の過半数近くが常に沖縄県出身者によって占められ、従って犠牲者も沖縄県出身者が多いこと、また沖縄県は第二次世界大戦の最後の決戦場で、本島南部の聖地「摩文仁の丘」には、各都道府県の慰霊塔が建立されており、同じ戦争犠牲者を同じ聖地にお祀りすることが有意義であるといった理由からでした。これらは大先輩である私の恩人の故・中村源照氏(前沖縄県ダバオ会会長）より伺ったことです。

先の大戦による戦争体験者は残念ながら他界により年々減少し戦争に対する心の風化が進んでおります。このような時代だからこそ、私共の移民２世のダバオでの戦争体験も含め、戦争の愚かさ、平和の尊さ、命の有り難さを次世代へと確実に継承することは私共の責務であると常々考えております。PNLSCによる長年の残留日本人の救済は、ダバオ移民２世の私としても、戦争犠牲者の一人としても、また開拓移民のアミーゴとしての観点からも、決して他人事ではなく、貴団体には感謝と尊敬の念を常々抱いております。一人でも多くの残留日本人の皆様が、一日も早く日本国籍を回復されますことを切に願い、私からの寄稿といたします。

米国ラトガーズ大学で映画『日本人の忘れもの』を上映しました

北田依利（ラトガーズ大学博士課程・歴史学）

４月５日に、ラトガーズ大学で、映画「日本人の忘れもの　フィリピンと中国の残留邦人」（英語版）鑑賞後のオンライン・パネルディスカッションが実現しました。小原浩靖監督、PNLSC 代表理事の猪俣典弘さん、ラトガーズ大学の学部生の団体であるラトガーズ・フィリピン人学生会と日本人学生協会にご登壇いただきました。参加者はラトガーズの学生（学部生、大学院生）や教職員、総勢 50 名ほどで、桂田アマンダ純さんに同時通訳を務めていただきました。

パネルでは、日本人の海外移住と引き揚げ・戦争によるコミュニティの崩壊、植民地主義、第二次世界大戦の記憶、フィリピン日系人が直面してきた戸籍の問題について議論しました。参加者、とくに学生たちから刺激的な質問が飛び交い、また多くの参加者から日本とフィリピンの関係やフィリピン日系人の歴史、戸籍にまつわる彼らの現在進行形の問題について何も知らなかった、という感想が寄せられました。ラトガーズ大学図書館が映画の DVD を購入したので、今後ますます多くの人が映画を鑑賞し、フィリピン日系人について学んでくれるかと思います。

３月 25 日には、ホノルルで開催されたアジア研究学会の映画博覧会で、４月 12 日にはイリノイ大学アバナ・シャンペーン校の東アジア・太平洋地域研究所で、同作の英語版上映を企画し好評を博しました。興味深いことに、双方の上映会において、昨今日本で働くフィリピン日系人やフィリピン人が日本で経験している人種差別やその他の苦労について質問を受けました。映画とフィリピン日系人の状況を多くの人々に知ってもらうために、これからも尽力していけたらと思います。

日系人会員メッセージ：三輪マーロンさん（3世）

浜松市で農園を運営、農業の担い手として地元も期待

私は、先日、日本の家庭裁判所で就籍を許可され日本国籍を取得した２世三輪ホセの長男マーロンです。私の祖父、三輪隆一は戦前フィリピンにきて、農業と大工をしていましたが、終戦時日本に強制送還され、残された祖母と４人の子は二度と祖父に会うことはかないませんでした。父やその兄弟たちは日本の父（祖父）に会いたいと願いつつ、探し出す方法もないままでした。

1997年に偶然、日系人の身元捜しをしている団体のことを報道で知り、身元捜しを依頼したところ、調査により祖父の戸籍が見つかりました。日系３世として定住ビザで日本に行く機会に恵まれることになったのです。初めて日本に降り立ったのは1999年12月20日です。

日本で様々な仕事をし、同じ日系３世の女性と結婚しました。最初は子どもをフィリピンの両親に預け、夫婦で日本で働きましたが、やがて子どもたちも呼び寄せました。息子は最初は日本での暮らしを嫌がりましたが、学校で日本語を覚えるにつれ、ここでの暮らしが好きになっていきました。他方、当時の私は、毎日会社で働くことに疲れており、いつかお金がたまったらフィリピンに帰って、穏やかな老後を過ごしたいとばかり考えていました。

2016年、トヨタとスズキの工場での仕事を失い、次の仕事がなかなか見つからずにいた時のこと。フィリピン人で初めて静岡県浜松市で農場経営を始めたモンテロ氏と知り合い、彼の畑でパートで働くことになりました。彼にいろいろ教わるうち、農業に興味が湧いてきて、栽培や農業の適正技術を学ぶセミナーにも参加し、1000㎡につき年間１万２千円で農地を借りて自分の畑をやるようになりました。地元の農協の「農業担い手育成支援」の助成を受けることができたことは日系人として誇りに思います。おかげで農業資材を安く購入でき、農業の規模拡大につながりました。

畑ではインゲン、レタス、ねぎ、冬瓜などを育てています。フィリピン人をパートタイムで雇い、また彼らにも自分の農地を持つよう勧めています。自分が学んだことを他の日系人、フィリピン人に伝え、恩返ししたいのです。今や私は会社で働くのではなく、夫婦で自分の農場を運営しています。私のような農業従事者を支援してくれる日本政府に感謝しています。父も私たちをたびたび訪問し、一緒に畑での時間を楽しむことができました。日本国籍もとれたので、近くこちらに呼び寄せる予定です。

New intern ！

明治学院大学に通っている３年の櫻井雄生（さくらいゆうせい）です。大学での専攻は英文学です。文学作品には、その国独自の価値観などが多く反映されています。アイデンティティをテーマにした作品も多くあり、特に民族的なアイデンティティの背景を理解するには歴史と文化の理解が不可欠です。フィリピン留学を予定していた関係から大学の先生にPNLSCを紹介いただき、今現在お手伝いをさせていただいています。

ボランティアの内容は、主に英文翻訳です。PNLSCでは日本国籍がまだ認められていない２世の人たちを支援しています。例えば、戸籍の所在がわからない２世の戸籍を新しくつくるために、証拠書類を集めて家庭裁判所に申立てをする前の準備作業などがあります。私はそのような英語で書かれている書類を日本語に翻訳しています。専門用語などもありわからないこともたくさんありますが、その都度丁寧に教えてくださる優しいスタッフの人たちに支えられています。

参加してよかったことは、活動を通して「歴史の捉え方」が変わったこと。この活動での中心はフィリピンから見た歴史です。日本から見た知識として知っている歴史と、他の国から捉える歴史や出来事は大きく違いました。今現在、フィリピン日系人として貧困や就労の困難に直面している人たちがいることを知り、知識としてでしかなかった過去の歴史を、「今につながっている」社会的な問題として、意識するようになりました。フィリピンの留学はコロナの関係で中止になってしまいましたが、これからもこの活動を通して少しでも多くのフィリピン日系人の方が生きやすくなるお手伝いをさせていただけたらと思っています。

支援者からの証言：永田ミユキさん（87歳）　熊本ダバオ会・引揚者

あの地獄絵図を忘れてはならない

前列右から父・福田定と母・しづえ

大正時代の半ば、私の両親はフィリピンに移住し、父はダバオの楠山鉄工所に勤め、後に麻栽培に従事しました。私を含め６人の子がフィリピンで生まれました。ハワイ生まれの母は英語が堪能で、日本人が発明した麻ひき機械「ハゴダン」の特許をめぐる米国人との訴訟では英語の通訳として活躍したと聞いています。

戦争が始まると日本人はフィリピンの民兵に捕えられ収容されました。私は６歳でした。日本軍が上陸して解放され、今度は民兵が捕虜になりました。数日後、人ごみの向こうに柱に縛り付けられた血だらけのフィリピン兵士の姿を見つけて、私は立ちすくみました。日本兵が急所をはずし、銃で撃ったり銃剣で衝いたり、最後には生きたまま土の中に埋めらました。脱走を企てて見せしめにされたのか。「可哀そうに」という母のつぶやきを聞いた日本兵が、「非国民」と怒鳴りつけたことをよく覚えています。

昭和 20 年、フィリピンは激戦地となり、B29（爆撃機）が飛んでくるようになりました。上の兄は軍属に召集され、両親と６年生の兄、１年生と２歳の弟、そして私は、軍の命令により他の日本人とともにタモガンのジャングルに逃げ込みました。毎日Ｂ 29 が襲来し、時々偵察の観測機が飛んできます。観測機の後には艦砲射撃が一斉に飛んできます。観測機には子どもの泣く声、時計の針の音さえ聞こえると聞かされていましたから、観測機が来るたび爪の伸びた手で２歳の弟の口をふさぎ、爪にひっかかれて弟の顔は傷だらけでした。 昼も夜も容赦なく空と陸から攻撃が続き、正気の沙汰をなくして包丁で切腹する人、幼い子どもたちや病気やケガをして歩けなくなった人たちを置きざりにして逃げる人。ある夜中、逃げる途中、立ち止まったと同時に破片が足元にドスン！　もし前進していたら頭にグサリ、だったはず。何処からともなく焦げ付くような匂いがすると思えば、弾に直撃され、黒焦げになった死体があるのです。

はじめは団体で行動していましたが、食料を分配して単独行動することに。寝ている間に大切な食料を日本兵にとられたこともありました。自分自身が生き延びるためには仕方なかったのでしょうか。食料はいよいよなくなり毒草以外は食べつくし、餓死者が多くなりました。残された者も亡骸を埋葬する元気はありません。蛆虫が群がり、目から鼻から蛆虫が出たり入ったりし、３日も経つと白骨化していくのです。私はこの地獄絵図を忘れることはできません。いや、忘れてはいけないのです。

食料を求めて、ジャングルを出て昔の我が家のほうに進みました。あと少しというところで父が歩けなくなりました。「自分の土地で死にたい」という父を、母の親せきに頼み背負ってもらい、辿りついたその２日後、自分が築き上げた麻山で、父は 53 歳の生涯を閉じました。敗戦の報を聞いたのはその 10 日後でした。

引き揚げから 10 日後に亡くなった母

収容所で弟１人が亡くなりました。引き揚げ船に乗せられ、10 月末に広島に上陸。故郷熊本に帰り着いた翌日、亡くなった家族の葬儀をすると、母はその夜床に伏しました。安心したのか帰り着いて 10 日目に母もこの世を去り、６年生だった兄も母の後を追うように逝きました。「寒い」「お母さん」と泣く１年生の弟をみて、私も「お母さん、なぜ死んだの」と墓前に泣きくずれた日も幾度あったでしょう。子どもの頃は人がしない苦労をしましたが、晩年は幸せでした。私は昭和 30 年に結婚、夫は優しくて私のことを全面的に理解してくれる人でした。夫の力添えで「熊本ダバオ会」の事務局を 32 年ほど務めました。よい子どもたちにも恵まれました。

昭和 58 年、私と兄弟と３人で、フィリピンへの墓参団に参加し、生まれ故郷ダバオを訪れました。父の眠る麻山は荒れ果て、38 年の月日を物語っていました。

私は３年前に脳梗塞を起こしましたが、病院のおかげで元気になりました。今は、せっかく日本に持って帰ってきた命だから、命ある限りみんなの分まで生きていこうと思っています。毎日ダバオの思い出、美味しかったドリアンの味を思い出して楽しくやっています。

戦争を体験した者として平和を願う一人だからこそ、この話を伝えたいと思いました。 戦争は人間の心を変え、自分が生き延びるためには鬼にも蛇にもなり、異常でみじめな姿になってしまう。戦争はけっして起こしてはなりません。戦争の事実を風化させてはなりません。

PNLSC 活動報告（2022.04.03-2022.6.28）

04/03 猪俣フィリピン出張(～6/7)
04/05 ラトガーズ大学主催映画「日本人の忘れもの」上映後オンラインパネルに猪俣、小原浩靖監督が参加
04/07 ニュースレター発送準備（ボランティア小島さん、吉沢さん）
04/12 猪俣代表とズニエガ弁護士が在マニラ日本大使公邸にて在外公館長表彰授与
04/12 来所：八若ファミリー３世 13人（埼玉、静岡、名古屋から）
04/13 ニュースレター発送作業（ボランティア宮崎さん）
04/14 ニュースレター発送準備（ボランティア小島さん、シャープさん）
04/18 来所（マニラ）：NHK酒井紀之支局長
04/19 来所：成松ビセンタさん
04/26 来所：櫻井雄生さん
04/28 森山ひろし衆議院議員事務所訪問
05/10 外交史料館調査（田近）
05/16 来所：河村保弘さん（賛助会員）マニラのリッターオブライト事務所カレン カピス副所長と打ち合わせ（猪俣、エミー）
05/19 猪俣ダバオへ (～ 5/24)
05/20 フィリピン日系人会連合会イネス・マリャリ会長と面会（猪俣）
05/21 フィリピン日系人会会長及びスタッフと会議議/石川義久在ダバオ総領事と面会（猪俣）
05/22~23 ダバオでフィールドワーク（猪俣）
05/25 マニラ日本大使館にて牧野参事官と前多領事と打ち合わせ
05/26 来所：伊藤佳江税理士（監事）
05/27 パラワン島出張（猪俣、エミー）
05/28 パラワン日系人会設立準備会合（猪俣、エミー、イネス会長）
05/29 パラワン島各地の日系人訪問（NHK取材同行）（～6/2）
06/03 来所：S.O.O.奥山美由紀さん
06/06 弁護士・事務局会議（河合弁護士、青木弁護士＋事務局３人）来所：NHK安部康之さん
06/07 猪俣フィリピンから帰国
06/09 UNHCR東京事務所とオンライン会議（猪俣）
06/10 (公財)生協総合研究所訪問（猪俣）フィリピン大使館主催独立宣言124周年記念式典に出席（河合弁護士、佐藤弁護士、猪俣）
06/28 外交史料館調査（田近）

ご支援に感謝いたします（敬称略・順不同・2022.4.1-2022.6.24）

《**新入会**》
個人賛助会員：玉井嗣久、青山大人
日系人会員：オルベス オリバ ムマル、ムマル オスワルド ヤワカ、ヤワカ ペドロ ラムシン バオン、ヤワカ レイムンド バオン、リグイド リディア ヤワカ、タン ホセフィナ ヤワカ、パネス ヘネリセ、タンケ ピラール ジャスミン 、ムカイダ ロメオ、スペラブル スーサン シライシ、ノレト ザパンタ シライシ
《**会員更新**》
団体正会員：清水木材株式会社㈱
個人正会員：外薗善一、関山龍一
個人賛助会員：宮城智子、鳥海典子、切通載行、紫垣麻由子、吉村邦雄、小山誠二、落合直之、塩村あやか、山入端嘉弘、小島祥美、吉沢智子、松﨑孝、米野みちよ
日系人会員：タグチマヌエル、ヌルド レイナルドカタオカ、レベロ アナサヨコラミレス、金城ビンセント、金城タミコ、ブニ ステファン キリコ、サカイ マリア メリッサ、ラビンダオ ヘンリエト オナカ、アルディエンテ　エドウィンオオフジ、フェラレン エドガーヤマナカ、ウリエル アココロ ガスパール、ビアン ノエル フジシマ、デラクルス ロールデスソリス ホソダ、パヒラガオ エピファニオ、ヌクイ ナンシー、ロセル スセット マグバヌア
寄付：タグチ マヌエル、関野和美、星長吉、ばかぼん、石井教夫、鍵和田美津子、菅文惠、住吉千砂、鈴木美智子、山城玉美、福山弘隆、飯田修、パヒラガオ エピファニオ、小野恭子、一ノ瀬渉子、大石正人、アバルカ ロサリナ ラボルテ、オバック デルフィン、ロセル スセット マグバヌア、佐々木悦子、日野成人、河合弘之、久保田真弓、角本忠／歌子、福安円、寺島淳一、髙良栄吉
物品寄付：本田節子、大野俊

※当所への 3,000 円以上の寄付、個人・団体賛助会員、学生、日系人会員の会費は寄付控除、法人税優遇の対象となります。（但し、正会員会費と各種入会金は控除の対象外）

事務局だより

■ここ１、２年は３世の日本国籍取得の相談も増えています。２世の性別や３世の出生年等の条件で国籍取得の可否や方法も違いますが、紆余曲折しながらも国籍取得許可件数は増えています。許可が下りるまでに、法務局の職員が PNLSC 東京事務所を訪問し、日本各地に在住する３世とオンラインで面接したケースもありました。登載許可後は、免許証やマイナンバーカードなどの名称変更等の手続きが必要となり、それに関する問い合わせがあるたびに解決方法を手探りで模索しています。■ PNLSC ではニュースの発送作業、翻訳、書類や書籍整理などのボランティアを随時募集しています。フィリピン日系人のこと、NPO の仕事に関心がある方、事務局までご連絡ください。

マニラ事務所便り

月に何回か、オンラインインタビューに通訳として参加します。オンラインで２世と話し、彼らの記憶を共有できるのはこの仕事の醍醐味で、心がふるえます。就籍許可の知らせを２世に伝える時は彼らの感謝の気持ちを感じとることができ毎回本当にうれしいです。２世とその家族の皆さんが、結果がでるまで健康でポジティブで居続けることを祈っています。‘Beautiful things take time”（よいことには時間がかかる）といいますが、いつかきっと訪れるのです。（Jen/Emie）

ご入会・ご寄付のお願い

■正会員
（団体）入会金　30,000 円
　　年会費　24,000 円
（個人）入会金　10,000 円
　　年会費　12,000 円
■賛助会員
（団体）入会金　10,000 円
　　年会費　12,000 円
（個人）入会金　1,000 円
　　年会費　6,000 円
■学生会員
　入会金　なし
　年会費　3,000 円
■日系人会員
　入会金　なし
　年会費　3,000 円
■銀行口座
みずほ銀行　四谷支店
　普通　１９８５２９３
ゆうちょ銀行　〇一九支店
　当座　00130-6-333599
※名義はいずれも「フィリピンニッケイジンリーガルサポートセンター」

発行
認定 NPO 法人
フィリピン日系人リーガルサポートセンター
(Philippines Nikkei-jin Legal Support Center)

代表理事：猪俣典弘　Norihiro INOMATA
事務局長：石井恭子　Kyoko ISHII

〒 160-0003
東京都新宿区四谷本塩町 4-15 新井ビル 3F
TEL:03-3355-8861　FAX:03-3355-8862
E-mail:info@pnlsc.com
URL:http://www.pnlsc.com